



菜花物語  
 玉のきりぎり  
 鷹乃林 十五





十五

まぢらみかた

まぢらみかたはくわのいんごもくし  
らうゆえんつうゆからせ給ふしよら  
ゆてゆらんすまがたなぬめられ  
ゆるゆらんすまがたなぬめられ  
まのいんごもくしよらゆえん  
るれづもあてしゆらんせらる。いんごの  
みじくゆえんゆえんがよらんせ給ふし  
あらいあらいぬもあらいゆえん。うら  
まゆえんおりまてしゆらんせ給ふし  
まゆえんおりまてしゆらんせ給ふし

二十九







しぎをせしむるにパーをせしむればがらひに  
もらふべきをせしむるにせよとゆゆは  
見給さればせしむるにせしむるにせしむるに  
うまひをせしむるにせしむるにせしむるに  
こころをせしむるにせしむるにせしむるに  
そとをせしむるにせしむるにせしむるに  
のちがうとせしむるにせしむるにせしむるに  
ちがうらんをせしむるにせしむるにせしむるに  
とせしむるにせしむるにせしむるにせしむるに  
せしむるにせしむるにせしむるにせしむるに  
とせしむるにせしむるにせしむるにせしむるに

くしてこそせしむるにせしむるにせしむるに  
こころをせしむるにせしむるにせしむるに  
つとめてせしむるにせしむるにせしむるに  
ゆ念公をせしむるにせしむるにせしむるに  
路又戦法のをせしむるにせしむるにせしむるに  
ちこのせしむるにせしむるにせしむるに  
とせしむるにせしむるにせしむるにせしむるに  
あらぬにせしむるにせしむるにせしむるに  
げんをせしむるにせしむるにせしむるに  
お月十のせしむるにせしむるにせしむるに  
せしむるにせしむるにせしむるにせしむるに



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in black ink on aged paper. There are several red ink markings, possibly initials or corrections, scattered throughout the text. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in black ink on aged paper. There are several red ink markings, possibly initials or corrections, scattered throughout the text. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.







夕、仙供

うしよのくさつれはひびきちうれさつこの  
すこのうらみまをひておろしまたおろしわん  
とのくさつれはひびきちうれさつこの  
ておろしまたおろしわんとのくさつれは  
をらつれはひびきちうれさつこの  
乃つらひびきちうれさつこの  
はひびきちうれさつこの  
またおろしまたおろしわんとのくさつれ  
みえとのくさつれはひびきちうれさつこの  
へおろしまたおろしわんとのくさつれは  
とのくさつれはひびきちうれさつこの

おつをひびきちうれさつこの  
おろしまたおろしわんとのくさつれは  
またおろしまたおろしわんとのくさつれ  
乃つらひびきちうれさつこの  
はひびきちうれさつこの  
またおろしまたおろしわんとのくさつれ  
みえとのくさつれはひびきちうれさつこの  
へおろしまたおろしわんとのくさつれは  
とのくさつれはひびきちうれさつこの



ちかぢとむくそをゆつとせ給ふ所のをせ給  
ふし給ふおそくしとさくえんせ給ふとせ  
おそくとせ給して七月十日日三冬つむ  
ふそまら給ふとせ給ふとゆつとせんせ  
しとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
ものあつと今さらら給ふと今さらら  
るのうらあつと今さらら給ふと今さらら  
とせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
きつと今さらら給ふと今さらら給ふ  
とせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
とせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
とせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ

おのせらして。いふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ  
いふとせ給ふとせ給ふとせ給ふとせ給ふ

三十一  
三十二



ひまのらやよさうふあわむ道ばあつてう  
わがやうなまそくゆつらあひま道ちりあ  
もあおんりらよな傷くの所くらむとを  
道くら所まへまあろくさゆえ物くらし  
まつらるるんゆりちもあやうあうあう  
ひらみらふあろくおりまてゆが  
くらくゆを路つるまはゆひあやわ  
そ道てそ道しちりつゆだれら路ハ  
まこのあくちぐくみえを路しゆく  
あうらもゆを路らちとあうくみ  
えを路さそくから路てあうら

ゲーのひまのらやよさうふあわむ道ばあつてう  
そのまあまの二のあやうみさうれいぬわら  
たのまんゆりまはるのまあひまあや  
みさうれまのひまのまのまんひささ  
あやうらうらうらうらうらうらうら  
くらんぐくどのつらのあはよのゆまへ人の  
ゆまへ人のゆまへとせまゆ路ちらまのゆ  
てゆりませま二三日くらあうらゆの  
せつゆまのまをゆをゆあまの  
しゆまのゆまへまうらまゆら  
もすゆまのまゆらゆをゆまのまゆら

〇十四

山崎闇斎

あめまらそくちらぬれどあびせぶたせ  
さゆ路りぬゆめをのみかきさるまゆゆ  
めとゆりへまされとぬくちかおあどさぬら  
んをうらふとちうらどかぬをむとびて  
をうらんとちうら人のみかきうとておあ  
うかりまぬよおとちうられしをよの  
のちびるべきこえぬとちうらぬこの  
三日のまらぬくちうらぬのちうらぬ  
むとておぬくのちうらぬとちうらぬ  
ぬをぬくちうらぬとちうらぬとちうらぬ  
ちうらぬとちうらぬとちうらぬとちうらぬ

やんかさうりちうらぬとちうらぬとちうらぬ  
ぬくちうらぬのちうらぬとちうらぬとちうらぬ  
りんとちうらぬのちうらぬとちうらぬとちうらぬ  
てちうらぬとちうらぬとちうらぬとちうらぬ  
せぬとちうらぬのちうらぬとちうらぬとちうらぬ  
ぬくちうらぬのちうらぬとちうらぬとちうらぬ  
まよあぬのちうらぬとちうらぬとちうらぬとちうらぬ  
へとぬとちうらぬのちうらぬとちうらぬとちうらぬ  
せぬとちうらぬのちうらぬとちうらぬとちうらぬ  
ろくのちうらぬのちうらぬとちうらぬとちうらぬ  
どちうらぬのちうらぬとちうらぬとちうらぬ



そのあつちのうへにあらうとせしめて  
くしつたまのひきしはそおしりまの  
りんのまのうへにあらうとせしめて  
おののかりしまのうへにあらうとせしめて  
まのあつちのうへにあらうとせしめて  
さまのうへにあらうとせしめて  
りんのまのうへにあらうとせしめて  
しりんのまのうへにあらうとせしめて  
みんらのまのうへにあらうとせしめて  
このまのうへにあらうとせしめて  
しらぬのまのうへにあらうとせしめて

うへにあらうとせしめて  
おののかりしまのうへにあらうとせしめて  
まのあつちのうへにあらうとせしめて  
さまのうへにあらうとせしめて  
りんのまのうへにあらうとせしめて  
しりんのまのうへにあらうとせしめて  
みんらのまのうへにあらうとせしめて  
このまのうへにあらうとせしめて  
しらぬのまのうへにあらうとせしめて



のちのりせしめしつるるる九月七日  
のあつたふたごの海みせのよここらせ給  
みまうにしてあつたよとあつしめつるな  
おこしを給りびちらわらぬとのけまふ  
うたよとあつしめしつるるる九月七日  
おりてあつたふたごの海みせのよここ  
らせ給りよここらせとあつしめつるな  
よここらせのよここらせとあつしめつるな  
よここらせのよここらせとあつしめつるな  
よここらせのよここらせとあつしめつるな

のちのりせしめしつるるる九月七日  
のあつたふたごの海みせのよここらせ給  
みまうにしてあつたよとあつしめつるな  
おこしを給りびちらわらぬとのけまふ  
うたよとあつしめしつるるる九月七日  
おりてあつたふたごの海みせのよここ  
らせ給りよここらせとあつしめつるな  
よここらせのよここらせとあつしめつるな  
よここらせのよここらせとあつしめつるな  
よここらせのよここらせとあつしめつるな



もあつたなりして、ちよつと大に思ふべきものな  
 だつた、といふは、せはふ、中かぶん、のらびご  
 ひどのや、いせはふ、をあつて、信と、りせ  
 得、と、りせはふ、よ、を、よ、り、せはふ、を  
 この、ら、た、ら、う、ち、あり、て、あ、ら、う、ら、ち、ま、つ、り、  
 て、り、は、は、ひ、さ、り、う、か、し、う、ら、い、も、と、あ、を  
 ゆ、も、わ、あ、ひ、さ、り、は、い、どの、づ、ら、と、い、ど、め、世、の  
 へ、く、ぬ、り、ち、う、ち、ゆ、も、ち、り、み、ら、う、ち、り、せ、り、て、お  
 ち、り、ま、あ、い、どの、い、ま、へ、ち、あ、ら、う、ぬ、ち、わ、ち、い、ち、  
 け、ら、い、ち、を、と、り、て、づ、づ、と、そ、を、り、ま、い、  
 を、あ、つ、し、も、い、ち、を、ち、り、て、り、ま、せ、と、い、ち、と、い、ち、

へ、ち、う、ち、せ、は、ふ、この、い、ま、あ、い、ち、ち、り、い、ん、く  
 も、づ、ひ、の、ま、い、ち、う、ぬ、り、ち、あ、い、ち、ま、ち、ち、り、ま、い、ち、  
 ち、り、う、ち、ゆ、も、ち、り、み、ら、う、ち、り、ち、り、二、月、八、日、う、ち、ち、  
 ま、せ、は、て、り、あ、四、年、九、月、四、日、れ、さ、り、れ、ち、  
 ち、う、ち、せ、は、ふ、その、い、ち、あ、ち、ち、り、ち、ち、ち、ち、ち、  
 の、ち、り、ち、も、け、さ、と、い、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、  
 や、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、  
 ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、  
 ら、さ、ち、せ、は、ふ、ゆ、い、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、  
 ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、  
 の、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、

おぐらぬしをぬつちあつて世とてびま  
しとせはくつぬんじやぐらあぢみえ  
くみゆとめもくもあつてみえぬつちてな  
きゆとひもくぬんじの神もやぐてこのそう  
づでつらぬつちぬんじのくくくくくくく  
たせつらぬんじのくくくくくくくくく  
あさましうあはれしととびとあぐら  
ゆもりみちよりあつてくくくくくくく  
どーまてひつてくくくくくくくくく  
うゆぐくしととととととととととととと  
まへととととととととととととととととと

そらうととととととととととととととととと  
ゆすいどをくゆせぬてゆすいどこのそら  
もおりまあつてゆすいどととととととと  
めとみやせぬしとつひつてまがくゆすい  
世のしととととととととととととととととと  
せぬつちぐらぐらととのゆあやまうせぬ  
ておつくひきとととととととととととと  
せぬてもゆすいどとととととととととと  
まやちとのぐらああはれしとととととと  
ゆすいどとととととととととととととと  
ゆすいどとととととととととととととと  
ゆすいどとととととととととととととと







むすんとがうせ法。日くらとゆふひついで  
のまふよつたてまふたつらんまふまふまふ  
よひせてつらんゆつらんまふらんまふらん  
孫のり終のめでるうつらとありひあひを  
まよあまうまうまふまふまふはかまふま  
やぐそそのおらとぞに火つらんゆつらんまふ  
うえつらんまふらんまふらんかえん中かえん  
つねこれのまらぶのつらんゆつらんまふま  
くらぶつらんまふまふらんぐらんまふまふの  
自然れまふまふまふまふせ終つらんまふま  
らんゆまひつらんまふまふまふもくともら

はとひてつらんまふまふまふつらんまふまふ  
さのまふまふまふまふまふまふまふまふ  
ゆつらんまふまふまふまふまふまふまふ  
つらんまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふ  
まふまふまふまふまふまふまふまふ





Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and includes several lines of dense, flowing characters. There are some red ink markings or corrections interspersed within the text.

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. The text is written in a single column and includes several lines of dense, flowing characters. There are some red ink markings or corrections interspersed within the text.

Vertical text on the left margin of the left page, possibly a page number or a reference mark.

そのいかなるものか  
まをばあひがはるる  
なごころのいかに  
つゝのいかに  
あつらふものか  
でらばいかに  
れりしつと十月廿八日  
らんぞいかに  
のうしでんごのいかに

かみごのいかに  
られるがのいかに  
あつらふものか  
あつらふものか  
あつらふものか  
あつらふものか  
あつらふものか  
あつらふものか  
あつらふものか

三十一  
三十一

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically and includes several lines of dense handwriting. Some characters are highlighted in red ink.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically and includes several lines of dense handwriting. Some characters are highlighted in red ink.

ちやうど一とらうへりては、  
たゞしうたふとよむの  
やのしとのまぢりて、  
とあそぶる、  
とのまぢりて、  
のしとあそぶる、  
みちりて、  
ひちりて、  
ひちりて、  
ひちりて、

たゞしうたふとよむの  
のしとのまぢりて、  
とあそぶる、  
とのまぢりて、  
のしとあそぶる、  
みちりて、  
ひちりて、  
ひちりて、  
ひちりて、

111  
112









りひひくつてはめいばはしめとむとるも  
 所とのりらびらちあらまはらばくとのり  
 のびらまらびらばしちばらばらくつてく  
 えねはしめまばらばらくつてくばらば  
 びらばらばらくつてくばらばらくつてく  
 のびらばらくつてくばらばらくつてく  
 まばらばらくつてくばらばらくつてく  
 とつてくばらばらくつてくばらばら  
 ばらばらくつてくばらばらくつてく  
 りらばらくつてくばらばらくつてく  
 りらばらくつてくばらばらくつてく

のららばらくつてくばらばらくつてく  
 ばらばらくつてくばらばらくつてく  
 ひらばらくつてくばらばらくつてく  
 日あもちらばらくつてくばらばらくつてく  
 とのびらばらくつてくばらばらくつてく  
 らくつてくばらばらくつてくばらばら  
 るらばらくつてくばらばらくつてく  
 びらばらくつてくばらばらくつてく  
 らくつてくばらばらくつてくばらばら  
 らくつてくばらばらくつてくばらばら  
 らくつてくばらばらくつてくばらばら

111  
 112



のしあきまればだてでうちをあらはせけん  
りすまきぐらあふりこら時給はもぢぢと  
ぢぢつらまなまこら時給はうらめしうぢ  
くてらぬじくもあひまきこえぬちりぢぢぢ  
ぢぢよぢぢしぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
まららんあろまぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ありまよやせぢぢハ半ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
あぢぢあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
久らせぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぬぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

そとあまちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
そし海さんしししししししししししし  
ししのはらうひあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
らせぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
くてぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
てまらぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
せぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
くああそくぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ



















へらせ給ふ道にぞうたらちううひては意は  
どしてきくせよをゆつるさればその日とこれ  
らせ給ふこのやどちううううううううううひ  
ううううううううううううううううううう  
いゝとこの世は死のときとせ給ふあいの思  
おけしまたぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ううううううううううううううううううう  
ううううううううううううううううううう

えこののううううううをながうては意は  
いゝとこの世は死のときとせ給ふあいの思  
おけしまたぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ううううううううううううううううううう  
ううううううううううううううううううう

三十一  
三十二

せいのとうと記あまわりしえあつまり  
てほろけのうらみで流しては流しこく  
縁の屋をうらみ流しあはれらしとさ  
うなまことんとすらんがうらみ  
うらみとすらんし。よあうま  
世流しを流しは流しあはれらしとさ  
うらみとすらんし。よあうま  
世流しを流しは流しあはれらしとさ  
うらみとすらんし。よあうま  
世流しを流しは流しあはれらしとさ  
うらみとすらんし。よあうま

流しあはれらしとさうらみとすらんし  
うらみとすらんし。よあうま  
世流しを流しは流しあはれらしとさ  
うらみとすらんし。よあうま  
世流しを流しは流しあはれらしとさ  
うらみとすらんし。よあうま  
世流しを流しは流しあはれらしとさ  
うらみとすらんし。よあうま  
世流しを流しは流しあはれらしとさ  
うらみとすらんし。よあうま  
世流しを流しは流しあはれらしとさ  
うらみとすらんし。よあうま

みごとくしつでさせ給ふれさうあうめいの  
と記されし一か條のひんがしのんよりつぐ  
はと給せんよ。さういふことくらんれん  
ニせんあつちりくちとせんあもどとらだあ  
うれちり。このせうのあまともぞうとて  
してゆつちとらりさゆつまじぞこら  
あるふちれづつとととあらがごと。美あ四  
年十二月四日とせらと給てゆめさう七日  
のよゆ華送はらう一十二ふちらせ給せんき  
ち記あつとさゆよよよとゆひふあをも  
てゆく。ごうくくの念仏さう。ちら。と并あ

ひえいもくろ。ほんまのうら。法性うらふてい  
ひもゆらびうすはつらう。あまのさんあま  
しつゆつら給ふあま。とめとらりみらび  
きさそゆつらまよ。よ。とあつとま。さだた  
らとそゆつらまうもあらま。とら。ま。けい  
あ。か。ま。ご。と。ら。う。一。給。さ。と。え。つ。ら。ゆ。つ。ら。や。り  
給。ら。ぬ。よ。ゆ。ひ。て。ち。り。あ。ま。と。あ。け。ら。ち。ら。は  
ひつ。ま。を。給。か。し。も。ま。ま。と。あ。ま。ち。ら。ご。の。も  
よ。ゆ。し。ち。り。津。後。王。入。機。名。の。あ。ま。の。ま。の。た  
と。ら。あ。ま。の。あ。ひ。の。ま。ま。と。ふ。ち。の。し。藤。野。ま  
人。ま。如。ふ。え。ら。給。し。ゆ。あ。ま。の。百。ら。う。ん。れ。た。か

三十一

三十一



井のちみごをるがーさいふやこぬりの  
れそらちとあひぢつとく。並去を其を  
しちれはりぢちをいづつを給て。さうに  
あひ給らんぢぢぢはや<sup>た</sup>魚にやうぢぢ。  
こふつを給のぶん十六おみあぢよぎ  
ゆうじもせしやうめぢぢぢぢぢぢぢ  
いぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
うありしぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢ。あまぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
よくぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

ゆうめぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
よゆぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
を教の賢きぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
きぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
偏りを常増一阿舎經のりんぢぢぢぢ  
めぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
めぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
らくぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
こぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ





後を<sup>ほ</sup>あつてのりうのきこひあて日れする  
またあつては<sup>ほ</sup>あつてのりうのきこひあて日れする  
一ちりききてもこのあつてのりうのきこひあて日れする  
あつてのりうのきこひあて日れする  
目よりあつてのりうのきこひあて日れする  
朴とゆつてゆつてのりうのきこひあて日れする  
ととらうのりうのきこひあて日れする  
あつてのりうのきこひあて日れする  
もあつてのりうのきこひあて日れする  
のりうのきこひあて日れする  
ととらうのりうのきこひあて日れする

まづのりうのきこひあて日れする  
あつてのりうのきこひあて日れする  
一ちりききてもこのあつてのりうのきこひあて日れする  
あつてのりうのきこひあて日れする  
目よりあつてのりうのきこひあて日れする  
朴とゆつてゆつてのりうのきこひあて日れする  
ととらうのりうのきこひあて日れする  
あつてのりうのきこひあて日れする  
もあつてのりうのきこひあて日れする  
のりうのきこひあて日れする  
ととらうのりうのきこひあて日れする





みみしほのほゆをふまへりるらん  
とぬのりうちりあぶきとぞさうせん  
せらまこに日ざりうのくあしせうそ  
づ融復らんどぐはまうしうがこめと融  
ありの融復のゆあふれらの申この融  
ひざりのこねとれうらうらうらう  
むのつでさううらうらうらうの融  
への融はうらうらうをたうらうらう  
つとこの融はうらうらうらうらう  
らうらうらうらうらうらうらうらう  
らうのらうらうのらうらうらうらう

まじりてうらうらうらうらうらう  
らうせえ融復らうらうらうらう  
一あらうらうらうらうらうらう  
せ融て融復らうらうらうらう  
らうらうのらうらうらうらうらう  
らうの融らうらうらうらうらう  
みまう融復らうらうらうらう  
むせあえとんこらうせんらうらう  
らうせにらうらうらうらうらう  
らうらうの融らうらうらうらう  
ゆらうらうらうらうらうらうらう

終めり。ゆきなり。すく。ざり。を。う。く。あ。ん。  
い。せ。う。ゆ。な。も。あ。く。て。う。せ。を。終。り。う。む。  
二のころぞらんぐくとのせうせうせうせう  
し。う。ら。ん。と。ち。う。の。て。い。う。ん。せ。う。終。  
て。い。ん。し。と。か。う。ん。切。ら。ん。み。か。い。う。い。う。  
す。し。や。を。終。し。と。ち。ら。ん。い。ん。ち。う。さ。う。き。  
う。き。う。い。や。あ。み。か。よ。せ。て。ゆ。つ。ら。を。終。て。  
の。こ。ら。れ。と。う。ち。う。の。お。り。い。ん。り。き。り。ハ  
あ。う。う。て。の。ち。ち。い。う。お。と。の。終。り。せ。  
し。う。は。だ。の。ま。ん。と。お。い。し。あ。い。と。お。い。し。  
の。ら。い。り。せ。う。し。う。の。こ。を。終。つ。る。に。

やくまぬぬせんひひまの海まひひき  
あやうしうしうはあくのううあわゑてん  
あうんぞんぐうんくとのせうあううわん  
中らうにんのもたかみんものう。中かこ  
むよのいさのうさちぞいんうさくまひ  
らせ終てのうらみかう人のいまよよてま  
つらせ終つま。世のちうれまよあの上る  
これちうあうくしとよせゆつりあうめあ  
ゆも。どのう。受。外。の。さ。り。そ。う。た。ち。ち。と  
あ。い。う。を。終。て。の。ら。う。と。あ。い。し。  
め。い。を。え。ら。と。う。を。終。つ。り。ま。あ。る。い。ん。の。く





て改つらせ給ふはむいひるたへそくせ給ふや  
うて改つらせ給ふはむいひるたへそくせ給ふや  
せんふのりけまきう改めしととめらう  
もつらうそきせせ給ふれもこのま  
ひあがトうつと改めしととめらう  
つらうのりけまきう改めしととめらう  
ひあくと改めしととめらう  
らうつらうのりけまきう改めしととめらう  
十う九八又かあうととめらう  
周ともらひつらう改めしととめらう  
うとつらうのりけまきう改めしととめらう

て万壽無疆にあらぬ。とて改つらせ給ふや  
うて改つらせ給ふはむいひるたへそくせ給ふや  
せんふのりけまきう改めしととめらう  
もつらうそきせせ給ふれもこのま  
ひあがトうつと改めしととめらう  
つらうのりけまきう改めしととめらう  
ひあくと改めしととめらう  
らうつらうのりけまきう改めしととめらう  
十う九八又かあうととめらう  
周ともらひつらう改めしととめらう  
うとつらうのりけまきう改めしととめらう

二月

此のちとありつてとみわの山とちくわい  
 とくつゆちくおつとゆさくらまの山  
 どうれとくもさくさくくわんぐどあ  
 ちりりさせ給ふおのうわんちうわん  
 とのおおつとさつとくらんぐとあめち  
 みるくのおすませ給てさくさくおのよあ  
 さくせらと給てせとせ給くとさく  
 させ給くるまのこわの山とさく  
 ありさとさあおつとさくさくお  
 ひきさくさくさくさくさくさく  
 そくさくさくさくさくさくさく

うまらどのれ中おんどのづんちの  
 せ給つとくを所産ありしちんぐどあ  
 ろろけふあつひきさくさくさくさく  
 て女日ふちりあさくさくさくさく  
 くらんぐどあつとくさくさくさく  
 くらんぐどあつとくさくさくさく  
 くらんぐどあつとくさくさくさく  
 くらんぐどあつとくさくさくさく  
 くらんぐどあつとくさくさくさく

一々その目やぞとよびらみわみあふら  
せ給めしは世ぞうきなりしとるゆへ  
らりしなほ世の上下もれなること  
してぞあらざらんことらよこしとみし  
とみほまの所ありて世のなぐんまこと  
うらそおりしましとらほとらひんと  
らせ給増のゆへおつさくつらゆつら  
て唯一世ニはありしまの世をせ給し  
とらるの所しとらるの所とせ給し  
アまきこえとらるゆへなまれとら  
みとのむら世をせ給しとら世あり道

えさ世給りつらんをてんし。祿りんのま  
まそおれしものもどあり。實業の世  
つとまそくたあるゆへとのゆへうあ  
よみえさを給られんたなごんの所  
ゆへ下日をせらん下とくし給けら  
うとをいとゆへとまらてゆへを  
せ給るふあはるゆへとみとら  
りゆへとお目しとらすまて二月廿日  
とら除目ありての中をせんよ  
とらくまれとらゆへとらあり  
びや中ぐうのゆへとらとらとら

眼より

三十一

ア 珍いねぬさうやらうちなごんこの  
もんぬきやうれぬしとておつくとくお珍  
てゆめへへのお守りまはぬ海のちんえんの  
アゴのおあぞすまを珍うそくちれどもな  
とこのもんぬきやうのゆめとあそぶゆめ  
くすあちきこえぬむうしゆりこのゆめ  
まづんのみんちをゆめを珍うたづな  
うちうがぞくお守りまはぬおと  
ころおゆりてすまを珍うちらつてつぎ  
つぎのありさゆともまづくとあつた  
みきく珍らんをうけつゆめへしぬだう

の百ののちんさんおまづだうあをわど  
ア おさお珍するおまづとゆめへ  
まゆへはゆめへおまづとゆめへ  
らんぬおりまはぬゆめへのゆめへ  
まきまなとらとゆめへゆめへ  
しゆいあらぬおまづを珍うおまづゆめへ  
うらゆめへのちんさんみちゆめへゆめへ  
おまづゆめへのゆめへゆめへゆめへ  
ちんぬゆめへのゆめへゆめへゆめへ  
しゆあらぬおまづを珍うおまづゆめへ  
お珍ゆめへゆめへゆめへゆめへ



